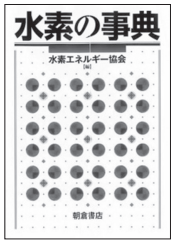

書　評

水素の事典

編者：水素エネルギー協会　　発行：朝倉書店　　定価：20,000円（本体）

評者：**吉田　英生**（京都大学）
E-mail：sakura@hideoyoshida.com

水素エネルギー社会実現への期待は大きく，多くの人々が研究・調査をする必要性が高いにもかかわらず，水素に関する信頼できる情報を包括的に与えてくれる本は，少なくとも和書では極めて限られていた．評者の知る範囲では，比較的最近に刊行されたものでは「水素・燃料電池ハンドブック」（オーム社2006年９月発行）がこの分野のバイブル的なものであった．この度，水素に関してより広い視点から最新の情報を反映した本書が発行されたことで，バイブルがさらに一冊増えた．タイムリーかつ意義深い本書にご尽力いただいた水素エネルギー協会の編集委員（岡崎健東京工業大学教授を代表とする11名）・著者（104名）の皆様には心からお礼申しあげたい．

基礎編８章，応用編９章から構成され，ページ数配分はおおよそ前者が1/3，後者が2/3である．目次を眺めていてまず面白いなと感じたのは，２章に「宇宙の始まりと水素」といった基礎的な話題もしっかり取り込んでいるという編集方針である．一方，巻末の16章「環境と水素」，17章「水素エネルギーシステムの実現への道筋」といった非常に読み応えのある重要な内容で締めくくっている．

豊富な内容にもかかわらず，外観はA5判で厚さがほぼ４cmでかさばらず（大げさなケースも付属していない），水素に携わる方ならまさに座右の一冊として日々手軽に参照していただけることを意図したものであろう．総じて熟慮された編集方針に基づいた，利用者の視点重視の貴重な書であり，一般通念としての「事典」以上に読み通すのが楽しい書である．なお，日進月歩の応用編にあっては，発行から時間が経つと内容が最前線から離れてしまうことは不可避であるので，このような事典はデジタル化され，適当な時間スパンで改訂版がアップデートされることにより，末永く読者を魅了し続けるフェイズに入ってきたとも言えるのではないだろうか．